

■子育てサポーターの効果

(単位：%)

区分	市民センター館長等
見守り活動など子育て支援に関する活動機会が増えた	65.3
地域住民の子育てに関するニーズを把握しやすくなった	26.3
地域住民の参画(講座の企画立案・運営への関与など)が増えた	23.0
学習情報の提供機会が増えた	8.9
地域住民の交流機会が増えた	36.6
家庭・地域の結びつきが強まった	15.2
館長・職員の負担が軽減された	26.0
その他	4.3

(2) 生涯学習の推進について

■どのような活動に活かしてもらいたい

(単位：%)

区分	市民センター館長等
地域活動やボランティア活動	77.8
市民センターの文化祭や地域のイベント	45.2
市民センター講座やクラブ活動	28.0
児童・生徒の学習活動(体験活動含む)	17.2
乳幼児の子育て支援	13.5
高齢者や障がい者の社会福祉に関する活動	22.2
仕事や就職	2.8
学んだ個人の生きがいや、自己実現	54.2
その他、無回答	3.0

■生涯学習を地域活動等に活かすために必要なこと

(単位：%)

区分	市民センター館長等
学んだ知識や技術を発表できる機会	45.2
生涯学習の場(施設)の整備	22.2
社会貢献(地域活動等)に関する情報提供	44.1
「学び直し」や新たな学びへ挑戦できる環境	28.8
学習方法から学習成果の活用まで支援する仕組み	8.8
学んだ人と地域の人をつなぐマッチング	54.0
地域活動している団体の受け入れ体制	39.1
その他、無回答	3.4

■地域における課題

(単位：%)

区分	市民センター館長等
住民同士の交流	34.0
町内会・子ども会等の地域団体の運営	27.7
地域の祭りなど伝統芸能の伝承	10.3
地域活動をリードする人材不足	58.3
高齢化への対応	60.6
子育て支援・家庭教育支援	12.5
青少年の健全育成	8.8
防犯(生活安全パトロールなどの見守り活動)	6.0
防災(防災訓練、防災体制など)	21.1
環境保護・美化(古紙回収、清掃活動など)	4.3
男女共同参画(男女の役割分担などの影響により男性・女性の参加・負担などの偏り)	2.8
人権尊重(一人ひとりが人権を尊重する環境など)	4.7
国際交流(国籍等に関わらず交流できる機会・環境など)	3.4
消費者問題(ネットやサイトの取引等に伴う問題など)	1.1
買い物支援(食料品・日用品の確保)	7.3
その他、無回答	4.5

■生涯学習をはじめのきっかけづくりに力をいれる点

(単位：%)

区分	市民センター館長等
子育て世代の参加、各世代のニーズ講座	70.1
「見る・体験する」行事やイベント	21.9
講座やイベントに市民の意見を取り入れる	32.3
地域で学習活動している団体の情報提供	24.3
講座やイベントの情報発信	33.3
民間施設の情報を収集・提供	8.6
施設や設備の改修	31.6
学校の教室などの貸出	13.8
その他、特になし、わからない、無回答	9.1

■今後の生涯学習推進に必要なこと (単位：%)

区分	市民センター館長等
生涯学習団体の交流・ネットワークづくり	15.5
NPO・大学などと協働した事業を増やす	17.4
学習情報の提供や学習相談体制の整備	10.5
年代に応じた事業実施	28.8
地域の課題解決に対する学び・活動を通じた地域活動	24.9
スポーツ・レクリエーション活動する人を増やす	12.9
地域活動（自治会など）行うリーダーの育成	29.2
地域団体やボランティア団体への支援	29.2
学習の成果を活かせる機会を増やす	10.3
生涯学習関連施設の充実と連携	8.4
学校と家庭、地域の連携	20.9
社会人の学び直しの推進	10.1
障害者の生涯学習の推進	15.5
その他、特になし、わからない、無回答	11.1

■行政が趣味・文化的な講座を主催することについて (単位：%)

区分	市民センター館長等
今まで以上に行政が積極的に行うべき	19.8
今までどおりで良い	34.8
行政と民間との間で整理すべき	32.0
民間に全て任せるべき	2.8
わからない、無回答	10.5

## 市政モニターアンケート結果（生涯学習に関する市民意識調査について）の推移

### ■調査概要■

目的：生涯学習施策に関する市民のご意見等を調査し、その結果を生涯学習推進計画の推進に係る評価の基礎資料するとともに、今後の生涯学習施策の参考とするため。

令和元年度

対象者：市政モニター150人（回答者137人、回収率91.3%）

期間：令和元年6月24日～7月8日

平成30年度

対象者：市政モニター150人（回答者141人、回収率94.0%）

期間：平成30年5月7日～5月22日

平成29年度

対象者：市政モニター150人（回答者131人、回収率87.3%）

期間：平成29年7月24日～8月8日

平成28年度

対象者：市政モニター149人（回答者131人、回収率87.9%）

期間：平成28年7月22日～8月10日

平成27年度

対象者：市政モニター149人（回答者139人、回収率93.3%）

期間：平成27年8月17日～9月9日

### ■「生涯学習」という言葉についての認知度（単位：%）

区分	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度
言葉も意味も知っている	78.4	73.3	72.5	58.2	67.2
言葉は知っているが意味は知らない	19.4	26.0	26.0	39.0	29.2
知らない	2.2	0.0	0.8	1.4	3.6
無回答	0.0	0.8	0.8	1.4	0.0

### ■過去一年間の学習活動の経験（単位：%）

区分	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度
学習活動した	68.3	66.4	70.2	63.8	56.9
学習活動をしていない	31.7	32.8	29.8	35.5	43.1
無回答	0.0	0.8	0.0	0.7	0.0

### ■学習活動についての満足度（単位：%）

区分	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度
満足	83.1	83.9	86.9	93.4	88.5
不満	14.8	10.3	8.7	2.2	5.1
どちらとも言えない、無回答	2.1	5.7	4.4	4.4	6.4

※「満足」に「大いに満足」を「不満」に「やや不満」を加えた数字

### ■学習成果を活かした地域活動・社会貢献への意向（単位：%）

順位	27年度		28年度		29年度	
	1	機会があれば活かしたい	47.4	機会があれば活かしたい	40.2	機会があれば活かしたい
2	すでに活かしている	25.3	すでに活かしている	35.6	すでに活かしている	28.3
3	ぜひ活かしたい	18.9	ぜひ活かしたい	16.1	ぜひ活かしたい	14.1
4	そのつもりはない	8.4	そのつもりはない	8.0	そのつもりはない	7.6
5	その他、無回答	0.0	その他、無回答	0.0	その他、無回答	0.0
順位	30年度		R1年度			
1	機会があれば活かしたい	57.8	機会があれば活かしたい	46.2		
2	すでに活かしている	16.7	すでに活かしている	25.6		
3	ぜひ活かしたい	16.7	ぜひ活かしたい	14.1		
4	そのつもりはない	8.9	そのつもりはない	14.1		
5	その他、無回答	0.0	その他、無回答	0.0		

■生涯学習に関する情報量についての満足度

(単位：%)

順位	27年度		28年度		29年度	
1	ある程度得ている	46.0	ある程度得ている	43.5	ある程度得ている	42.7
2	あまり得ていない	35.3	あまり得ていない	36.3	あまり得ていない	38.2
3	十分得ている	8.6	十分得ている	8.4	全く得ていない	10.7
4	全く得ていない	7.9	全く得ていない	5.3	十分得ている	6.1
5	分からない、無回答	2.1	分からない、無回答	6.1	分からない、無回答	2.3
順位	30年度		R1年度			
1	あまり得ていない	42.6	あまり得ていない	48.9		
2	ある程度得ている	40.4	ある程度得ている	33.6		
3	全く得ていない	9.9	全く得ていない	12.4		
4	十分得ている	2.8	十分得ている	3.6		
5	分からない、無回答	4.3	分からない、無回答	1.4		

■市政モニターアンケート結果(新しいまちづくり)の推移

■調査概要■

目的：市のまちづくりの基本指針である「元気発進！北九州」プラン（北九州市基本構想・基本計画）によるまちづくりの成果を、子育て、教育、福祉等の分野別に、市民の「満足感」、「実感」という観点を把握するため。

令和元年度

対象者：市政モニター150人(回答者137人、回収率91.3%)

期間：令和元年5月22日～6月21日

平成30年度

対象者：市政モニター150人(回答者134人、回収率89.3%)

期間：平成30年6月8日～6月24日

平成29年度

対象者：市政モニター150人(回答者131人、回収率87.3%)

期間：平成29年6月8日～6月23日

平成28年度

未実施

平成27年度

対象者：市政モニター150人(回答者141人、回収率94.0%)

期間：平成27年5月25日～6月15日

■生涯学習に関する環境づくりへの満足度

(単位：%)

区分	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度
そう感じている	19.9	—	13.7	3.0	19.0
どちらかといえばそう感じている	37.6	—	40.5	16.4	37.2
どちらともいえない	15.6	—	26.0	40.3	24.1
どちらかといえばそう感じていない	10.6	—	11.5	17.9	9.5
そう感じていない	9.9	—	3.8	11.9	6.6
わからない、無回答	6.4	—	4.6	10.4	3.6

※平成28年度未実施

■地域活動をする人材等の増加に関する意識

(単位：%)

区分	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度
そう感じている	9.9	—	4.6	6.7	2.9
どちらかといえばそう感じている	27.7	—	26.0	25.4	27.7
どちらともいえない	28.4	—	29.0	32.1	24.8
どちらかといえばそう感じていない	14.9	—	19.1	16.4	15.3
そう感じていない	9.9	—	10.7	6.0	13.9
わからない、無回答	9.2	—	10.7	13.4	15.3

※平成28年度未実施

## 計画策定経過

年度	月・日	社会教育委員会議	次期生涯学習推進計画検討会議	
			全体会	分科会
R 1 (2019)	01. 7. 17	第 1 回会議 ・現計画の課題整理や次期計画に関する意見のまとめ		
	8. 26			第 1 回分科会 ・各施策の成果と課題 など
	10 月	第 2 回会議 (10/25) ・各施策の課題と整理 ・体系図(案)など	第 1 回全体会 (10/18) ・各施策の課題と整理 ・体系図(案)など	
	02. 2. 10			第 2 回分科会 ・計画たたき台
R 2 (2020)	02. 4. 17		第 2 回全体会 【書面開催】 ・計画たたき台	
	5. 19	第 1 回会議 【書面開催】 ・計画たたき台		
	7. 2		第 3 回全体会 ・パブコメ素案	
	8. 3	第 2 回会議 ・パブコメ素案		
	8. 20	教育委員会会議に次期計画素案を付議		
	10. 6～11. 9	パブリックコメント実施		
	12. 11		第 4 回全体会 ・パブコメ結果について	
	12. 25	第 3 回会議 ・パブコメ結果について		
R 3 (2021)	4 月	教育委員会会議に次期計画(成案)を付議		
	6 月	市議会に次期計画(成案)を報告		

# 北九州市社会教育委員名簿

《順不同、敬称略》

区分	氏名	役職等
学校教育関係者	吉田 理恵	北九州市立小学校長会 代表 (令和元年8月29日～)
	登根 康之	北九州市立小学校長会 代表 (平成30年8月23日～令和元年8月28日)
	酒井 孝子	北九州市立小学校長会 代表 (平成29年8月29日～平成30年8月22日)
	善家 三知代	北九州市立中学校長会 代表 (令和元年8月29日～)
	永尾 敦子	北九州市立中学校長会 代表 (平成29年8月29日～令和元年8月28日)
社会教育関係者	中尾 美佐	北九州市婦人団体協議会 理事 (平成30年8月23日～)
	石田 祥子	北九州市婦人団体協議会 理事 (平成29年8月29日～平成30年8月22日)
	三好 孝	北九州市子ども会連合会 会長 (平成27年6月26日～)
	和田 正人	北九州文化連盟 専務理事 (平成29年8月29日～)
	森川 壽人	北九州市体育協会 評議員 (平成29年8月29日～)
	宮本 和代	元福岡県社会教育委員 (平成27年8月29日～)
家庭教育	高原 恵子	北九州市私立幼稚園連盟 理事 (平成28年10月6日～)
	吉井 裕子	北九州市PTA協議会 副会長 (令和2年7月22日～)
	清水 良江	北九州市PTA協議会 副会長 (平成29年8月29日～令和2年7月21日)
学識経験者	中島 慎一	市議会議員 (平成31年4月11日～令和3年2月9日)
	藤元 聡美	市議会議員 (令和2年1月9日～令和3年2月9日)
	森 浩明	市議会議員 (平成31年4月11日～令和元年10月15日)
	福島 司	市議会議員 (平成29年4月6日～平成31年4月10日)
	岡本 義之	市議会議員 (平成29年4月6日～平成31年4月10日)
	野依 智子	福岡女子大学 国際文理学部 教授 (平成29年8月29日～)
	山田 明	九州共立大学 スポーツ学部 教授 (令和元年8月29日～)
	大島 まな	九州女子大学 人間科学部 教授 (平成17年8月29日～令和元年8月28日)
	羽田野 隆士	北九州商工会議所 専務理事 (令和元年8月29日～)
	中村 涉	北九州商工会議所 参事 (平成27年8月29日～令和元年8月28日)
	中西 智恵子	公募委員 (令和元年8月29日～)
	藤崎 利廣	公募委員 (平成29年8月29日～令和元年8月28日)

## 北九州市生涯学習推進計画検討会議構成員名簿

≪順不同、敬称略≫

No.	区分	氏名	役職等	備考
1	学校教育	吉田 理恵	北九州市立小学校長会	
2	学校教育	善家 三知代	北九州市立中学校長会	
3	家庭教育	清水 良江	北九州市PTA協議会 (第1回、第2回)	
	家庭教育	吉井 裕子	北九州市PTA協議会 (第3回、第4回)	
4	社会教育	半田 百合枝	元 八幡西生涯学習総合センター ひとみらいプレイス事業担当 元 北九州市社会教育主事	
5	学識者	野依 智子	福岡女子大学 国際文理学部 教授	
6	学識者	山田 明	九州共立大学 スポーツ学部 教授	副座長
7	学識者	大島 まな	九州女子大学 人間科学部 教授	座長
8	人材育成	藤澤 隆文	社会福祉法人北九州市社会福祉協議会	
9	多様主体	大久保 大助	特定非営利活動法人KID's work 代表	
10	多様主体	森 聖子	北九州市障害福祉団体連絡協議会	
11	地域活動	古川 裕子	若松区 花房地区まちづくり協議会 会長 若松区 東28区自治会 会長	
12	地域活動	渡辺 いづみ	西門司市民センター館長	

### オブザーバー

1	学識者 (社会教育)	菊川 律子	放送大学学園特任教授 福岡学習センター所長 第10期中央教育審議会委員	
---	---------------	-------	--	--

北九州市生涯学習推進計画«“学びと活動の環”推進プラン»（素案）に対する  
パブリックコメントの結果

1 募集期間 令和2年10月6日（火）～11月9日（月）

2 提出状況

提出件数 51件

意見提出者 (団体・個人)	意見提出方法			
	電子メール	郵送	FAX	持参
26	1	4	20	1

3 意見内訳

分類	件数
計画全般に関わるもの	5
第1章 計画策定にあたって	—
第2章 北九州市の生涯学習を取り巻く現状と課題	—
第3章 生涯学習のこれからの方向	3
第4章 施策に関する具体的な取り組み	33
施策の柱1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり	(21)
施策の柱2 「学び」と「活動」による人づくり	(7)
施策の柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり	(5)
その他	10
計	51

4 計画への反映状況

区分	件数
① 計画に掲載済み、または計画期間中に実施予定・検討を含む	30
② 計画の追加・修正あり	1
③ 計画の追加・修正なし（今後、参考するものを含む）	5
④ その他	15
計	51

## 用語解説

	語句	説明
あ	ICT	情報通信技術（Information and Communication Technology）の略。情報・通信に関連する技術一般の総称。IT（Information Technology：情報技術）とほぼ同義に用いられるが、ネットワーク通信による情報・知識の共有が念頭に置かれた表現。
い	ESD	持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）の略。「持続可能な未来や社会づくりのために行動できる人の育成を目的とした教育」のこと。
	育児サークル	市民センターなど身近な施設を拠点に、親同士の交流や子どもの遊び・体験活動、地域との交流、子育てについての勉強会など、自主的な活動を行っている子育て親子や子育て支援者のグループ。
え	SNS	ソーシャル・ネットワーキング・サービス（Social Networking Service）の略。友人・知人等の社会的ネットワークをインターネット上で提供することを目的とするコミュニティ型のサービスのこと。例えば、LINE、Twitter、Facebookなどのことを指す。
	SDGs	持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）の略。2030年までに全世界で取り組む共通目標として、2015年9月の国連サミットで採択された。持続可能な世界を実現するための17のゴール（目標）に向けて、日本も積極的に取り組んでいる。北九州市は平成30（2018）年6月に国より「SDGs未来都市」に選定され、市民や企業、団体などが連携し、一丸となった取組みを進めている。
	NPO	非営利組織（Non Profit Organization）の略。様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体の総称。法人格の有無を問わず、様々な分野（福祉、教育・文化、まちづくり、環境、国際協力など）で、社会の多様化したニーズに応える重要な役割を果たすことが期待されている。
お	OECD	経済協力開発機構（Organisation for Economic Co-operation and Development）の略。OECEの後をうけ、1961年に発足した先進工業国の経済協力機構。経済成長・発展途上国援助・通商拡大の三つを主要目的とする。
	オンライン	通信機器を使った人同士の会話、会議、交流などのこと。また、パソコンなどが通信回線やLANによって接続されて、情報が転送できる状態。
か	学校支援地域本部事業	教員等の子どもと向き合う時間の確保や地域の教育力の活性化を図るため、「学校支援地域本部」を設置し、そこに学校と地域のボランティアとの連絡調整を行う「地域コーディネーター」を配置するなど、地域全体で学校を支援する体制づくりを推進する取組み。

## 用 語 解 説

き	北九州市公共施設 マネジメント実行 計画	本市の公共施設マネジメントは、市民の安全・安心を確保し、子どもや孫の世代が安心して暮らせる地域社会を築いていくため、真に必要な公共施設を安全に保有し続けることができる運営体制を確立していくことを目的としている。公共施設の集約に関する考え方や具体的な取り組みの進め方を示した計画。
	北九州ひとみらい プレイス	コムシティ内にある人づくり支援を目的としている11の公共公益施設による集合体の名称。北九州ひとみらいプレイスという名称には“未来をひらく人づくり”をめざす“人が集う場”という思いが込められている。
	キャリアアップ	より高い資格・能力を身につけること。経歴を高めること。
	共生社会	年齢・性別・障害の有無・国籍など、さまざまな違いがある人々が、それぞれが自立し、相互に支え合い、主体的に暮らしていける社会。 全ての人々が社会から阻害されることなく、人間として生きることが承認され、支援体制が確立されている社会。
く	グローバル化	社会的あるいは経済的な関連が、旧来の国家や地域などの境界を越えて、地球規模に拡大して様々な変化を引き起こす現象。
け	健康寿命	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。
こ	子育てサポーター	子育てに関する保護者の悩みや不安の軽減を図るため、市民センターを拠点として「育児サークル」や「フリースペース」等での活動を支援するボランティア。
	コミュニティ・ス クール	学校と保護者や地域の方々がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え地域とともにある学校づくりを進める仕組み。
し	ジェンダー	男らしさ、女らしさなど、社会的・文化的につくられた性差。
	シビックプライド	市民が自分が住んでいる、働いているまちに対して“誇り”や“愛着”を持ち、自らもこのまちを形成している一人であるという意識を持つとともに、自分たちのまちづくりに自発的に関わりたいという意識を持つこと。
	社会教育関係団体	社会教育に関する事業を主な目的とする団体で、公の支配に属さないもの。婦人会、PTA、子ども会、スポーツ・文化団体など。
	生涯学習推進コー ディネーター	市民センターにおける生涯学習の推進・活性化を図るため、学習機会や人材等、地域に関する様々な情報の収集や提供などを行い、市民センターと地域のパイプ役となる人材。